

研修会 事例報告

事例報告 (1)

病院機能評価 Ver.5 を受審して

入田 和恵

I. はじめに

病院機能評価委員会(事務局:経営企画課)を中心に、院内の点検及び調査票作成や各部門からの準備資料の内容確認等を行い、平成17年秋の受審を目指しました。

病院機能評価 Ver.5 の内容をご紹介します。

II. 図書室機能

「医療提供の組織と運営」の項目の中にあり、大きな項目は2つです。

1. 図書室機能が確立している。
2. 図書室が適切に運営されている。

III. 受審にあたっての取り組み

まず病院機能評価総合版評価項目解説集及び書面審査調査票の内容を熟読し、業務の現状と改善項目の確認をしました。

次に、図書委員会を開催し、機能評価の項目の周知と改善事項の協議を行い、委員会が業務改善を検討する場として位置づけられていることを再確認しました。

IV. まとめ

図書係になって、一年が経過してから準備開始が出来たことは、私にとっては幸運でした。仕事が一巡した時点でマニュアルを整備したことは、日頃の業務を見直すことにもつながりました。

まさに時機到来であったと思います。

評価結果は真摯に受け止め、これからの業務改善に役立てたいと思います。

事例報告 (2)

オリエンテーションと利用者教育

木下久美子

日本図書館協会は、2001年に「図書館利用教育ガイドライン」を、2003年に「図書館利用教育ハンドブック—大学図書館版—」を発行した。一方、厚生労働省は平成19年発行予定の「臨床研修指導ハンドブック」で、EBM (Evidence Based Medicine) を実践する上での必要性から、司書による「文献検索指導」をオリエンテーションの欄に掲げている(試作版がWeb上で公開)。このように病院図書室周辺では、利用者教育の必要性が言及されている。しかし、日赤図書室協議会が平成17年度に発表した「会員図書室調査報告」によると、回答62病院のうち利用案内または文献検索マニュアルを常備するのは21病院、研修医に医中誌WEBとPubMedの両方を指導(オリエンテーション)するのは4病院という結果であった。

当院では、4月は新人職員(研修医を含む)オリエンテーションで「図書室利用案内」のパンフレットを配布して図書室サービスを紹介する図書館ツアー(20分)を行い、研修医に限定するオリエンテーション(2時間)では、パソコンを使っての国内外の文献検索指導と臨床で役立つWeb上のサイト等を紹介している。また、看護研究をする看護師には、毎年文献検索指導(1時間)を行っている。そこで、当院における具体的な利用指導の様子やその進め方、実施にあたっての留意点等について報告した。

NYUUTA Kazue

大田原赤十字病院 図書室

KISHITA Kumiko

高山赤十字病院 図書室